

知って
おきたい
医療知識と健康生活習慣

消化器について⑥

感染性腸炎・食中毒に

気をつけましょう

千秋病院 消化器内科 藤本 正夫



夏場の気温上昇や行事の増加に伴い、腹痛や下痢、嘔吐、血便などを引き起こす感染性腸炎・食中毒がみられる季節になってきました。感染性腸炎は、汚染された食品を食べた後に腸管内で病原菌が増殖する「感染型」と、食品中で細菌が作った毒素を摂取して発症する「毒素型」に分けられます。

腸菌などが代表的です。サルモネラは鶏卵や鶏肉が原因となり、腹痛・下痢・発熱・血便を伴います。カンピロバクターは鶏肉の生食や加熱不足が原因となり、数日後に腹痛や血便が出る場合があります。

毒素型では、黄色ブドウ球菌、ボツリヌス菌、ウェルシュ菌などが知られています。黄色ブドウ球菌はおにぎりや弁当などで手で調理する食品で増えやすく、摂取後短時間で激しい嘔吐や腹痛を起します。ウェルシュ菌

はカレーや煮込み料理などで大量調理で一晩置かれた食品に多く、翌日に水性下痢を起します。

腸管出血性大腸菌（O157など）は十分に加熱されていない牛肉、牛レバー、汚染された野菜や井戸水などが原因となり少量でも感染し、血便や溶血性尿毒症症候群（HUS）を起こすため、感染症法により保健所への届け出が義務付けられています。

また、赤痢アメーバによる腸炎も近年増加しています。海外渡航歴がなくても国内で感染する例があり、粘血便や強い腹痛を伴います。内視鏡では特徴的な潰瘍がみられ、早期診断が重要です。

早めの検査を

これらの腸炎は、初診時のCT検査で腸管壁の肥厚がみられることが多く、肥厚する部位の違いも診断の助けになります。例えば、右下腹部の壁肥厚はカンピロバクター腸炎やサルモネラ腸炎、広範囲の著明な肥厚は腸管出血性大腸菌を疑う手がかりになります。

さらに、大腸内視鏡検査では粘膜の炎症や出血を直接確認できます。サルモネラ腸炎の散在性出血、カンピロバクター腸炎の回盲部潰瘍、赤痢アメーバの打ち抜き潰瘍など、病原体ごとの特徴が

診断に役立ちます。

確定診断には細菌検査が欠かせません。便を用いた抗原検査や毒素検査、細菌培養により病原体を特定します。これらの結果は治療方針の決定に直結するため、迅速な提出が重要です。

一方で、腹痛や下痢が続く場合には、感染症以外の腸の病気が隠れていることもあります。過敏性腸症候群（IBS）は内視鏡所見は正常で、ストレスや生活リズムの乱れが原因で腹痛と便通異常が続きます。また、潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患（IBD）も鑑別が必要です。

腹痛・下痢・血便などの症状が続くときは、ためらわずにご相談ください。

家族介護のためのハートフルケアセミナー
難聴について学ぶ

一宮市地域包括支援センターちあき

7月23日、千秋病院市民健康教室にて家族介護のためのハートフルケアセミナーを開催しました。交流会の後、日本福祉大学中央福祉専門学校言語聴覚士の井上ひとみ氏による「『難聴』の理解〜耳が聞こえないってどういうこと〜」の講演を行いました。



講演には27名が参加しました

交流会では5人程度のグループに分かれ、介護経験有無に関わらず意見交換。介護は介護者が健康だからこそできる、介護サービスの情報を自分から取っていくことが大事、自分自身の生き方を夫婦・家族間で共有しておきたいなどの意見が聞かれました。

主任介護支援専門員 小串 美樹

家族介護を担う人のためのリフレッシュ講座

一緒にリフレッシュの方法を学びませんか？

■日時 9月17日（木） 14：00～16：00

■会場 一宮研伸大学看護学部1号館

■講師 伊藤聖子氏（ウォーキングスタイリスト、社会福祉士）

■定員 35名

申込締切 9月14日（月）。事前予約制・先着順

◇同日開催 介護者同士の交流会

問い合わせ 一宮市地域包括支援センターまちなか ☎0586-85-8672

子どもの健康⑦

RSウイルス感染症

千秋病院 小児科 矢嶋 たえ子



RSウイルス感染症は、乳幼児に多くみられる呼吸器の感染症です。秋から冬にかけて流行することが多く、2歳までにほとんどのお子さんが一度は感染するといわれています。年長児や大人では軽いかぜ症状で済むことが多い一方、生後6か月頃までの乳児では細気管支炎や肺炎を起こし、入院が必要となるこ

ともあります。特に早産児や心臓・肺に病気のあるお子さんは重症化しやすいため注意が必要です。

◇

主な症状は鼻水、咳、発熱です。初めはかぜと見分けが付きにくいですが、次第に咳が強くなり、「ゼーゼー」「ヒューヒュー」と呼吸音が聞こえることがあります。呼吸が

速い、胸がへこむような呼吸をしている、水分が十分とれない、顔色が悪い、ぐったりしているなどの様子がみられる場合は早めに受診してください。月齢の低い赤ちゃんでは、まれに無呼吸を起すこともあります。

RSウイルスに特効薬はなく、治療は症状を和らげることが中心です。多くは1〜2週間で回復

しますが、咳がしばらく続くこともあります。また、学校保健安全法で出席停止期間は定められておらず、呼吸器症状が改善し、全身状態が良ければ登園・登校の目安となります。

RSウイルスは、咳やくしゃみだけでなく、手やおもちゃを介しても移ります。こまめな手洗いや手指消毒、おもちゃやドアノブなど人がよく触れる場所を清潔に保つことが感染予防につながります。家庭内では、きよ

うだいから赤ちゃんへ感染することも少なくありません。

◇

近年は、RSウイルス感染症の重症化を防ぐための予防法も進歩しています。2026年度からは妊婦さんを対象としたRSワクチンが定期接種となり、生まれてくる赤ちゃんの重症化予防が期待されています。ご希望の方はかかりつけの産婦人科へご相談ください。

介護保険制度・介護報酬の抜本改善、
大幅な処遇改善を求める請願署名に
ご協力ください

2025年の介護事業所の倒産、休廃業数は過去最多となりました。中でも基本報酬が引き下げられた訪問介護（ヘルパー）事業所への影響は大きく、事業所が0になった自治体は116町村と増加しています。

介護職の人手不足の深刻化に対し、国は人

員配置基準の緩和（少ない人員での介護を制限）することで解消しようとしています。しかし、それではサービスの質の低下が懸念されます。利用者の視点から見ても、利用料2割負担の対象拡大やケアプランの有料化など、負担を増やす改悪が検討されています。実際に、

介護サービス推進課

谷口 薫

有料老人ホーム入居者のケアプランの有料化が決まりました。

このままでは介護が必要な人が、必要なくに介護を受けられなくなりそうです。そうならないために、今こそ財源を社会保障費に回して、介護報酬全体の底上げをすること、利用困難に陥る改悪を行わないことをこの署名で求めています。ぜひ協力をお願いします。

介護サービス推進課